

## 【宮城県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
登米市	津山	担い手法人の活躍による次世代への農地継承	1	H28.12	2
遠田郡美里町、涌谷町	出来川右岸	農地利用集積による大型施設野菜団地の形成	2	H31.03	5
遠田郡美里町	青生・青生2期	基盤整備を契機に日本を代表する営農組織へ	3	R元.12	6
大崎市	田尻西部	基盤整備による経営体の育成と米の生産コストの削減	4	R4.03	8
栗原市	金田	中山間地域における持続可能な農業経営の取組	5	R5.03	9
柴田郡柴田町	中名生・下名生	ぜいたく味噌のブランド拡大とたまねぎ産地の形成	6	R7.03	11

## 【工夫のポイント】

- 基盤整備を契機に地区内で**農業法人(フォレストウインド津山)**を設立。法人への農地集積に加え、水稲、野菜、花き生産等に取り組む。
- **湛水直播や疎植の導入等による生産コストの縮減**を図る。
- 20代の若者2名(地域外の出身者含む)の正規雇用を通じ、**地域の担い手として成長を支援**。

## 基盤

### 農地の大区画化や汎用化による 労力の軽減と高収益作物の導入

区画整理や暗渠排水等の整備により、生産コストの低減を図るとともに、**畑作物の栽培等の水田の高度利用や高収益作物の導入を実現**。



### 基盤整備 (H16年～H23年)

### 【整備前】

昭和30年代の干拓事業により**10a区画に整備されていたが、排水不良**によりコメ以外の作物の導入が困難であった。  
また、小規模零細農家が多く、経営の大規模化も進んでいない状況であった。



## 【取組地域の概要】

- 位置 とめし つやままち  
宮城県登米市津山町  
(特定農山村等)



- 傾斜 1/500程度
- 主要作物  
・ 水稲、ねぎ
- 主な支援施策

- ・ 県営経営体育成基盤整備事業(H16～H23)
- ・ 中山間ふるさと・水と土保全対策事業【県単】(H21～)
- ・ 多面的機能支払交付金(H24～)

## 生産現場

### 高収益作物の栽培と作業コストの縮減

- 米価下落への危機感により、労働時間の節減により創出された時間を活用し、ねぎ・小菊等を栽培。
- 水稲生産においては、コスト縮減に向け、**移植栽培から直播栽培へ移行**。また、**疎植栽培など地域にあった栽培方法を実践**。



## 加工・流通

### 生産法人による市場への独自出荷



- 小菊は札幌、東京、大阪の市場の値動きを見ながら地区内の法人自らが独自に出荷。
- 地元酒造会社と連携し、日本酒製造にも取り組む。

## 担い手

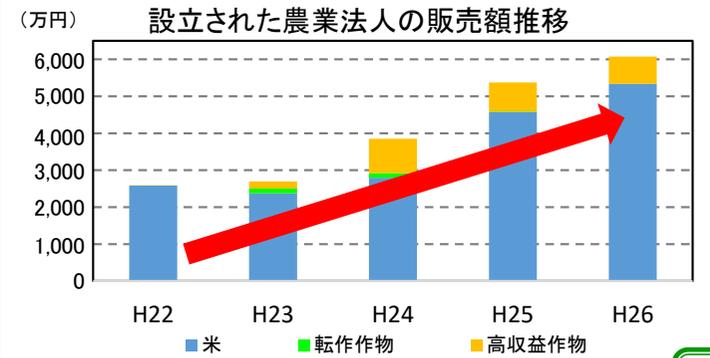
### 法人雇用を通じた若手農業者の育成



- 地区内に創設された法人に農地を集積するとともに、**地域内外の若者を雇用**。将来の担い手として、**技術継承等を通じて地域全体で育成**。

### 生産コスト削減や高収益作物の導入による法人の所得の確保

- 地区内の農地を農業法人に集積し、栽培及び経営を一元化。水稲生産の作業効率化や品質向上を図るとともに、高収益作物の導入により**法人の販売額が増加**。



【工夫のポイント】

- 水稲+施設野菜の複合経営を行っていた**農家7名**が、**基盤整備**を契機に**生産組合(アスファ生産組合)を設立(H10~)**。
- 基盤整備によりほ場の大区画化・汎用化を行うとともに、農地を集積し、**大型野菜団地(4.3ha)を造成**。
- 将来は、各自が**1戸1法人として自立**し、地域農業を担う農業経営体を目指す。

【取組地域の概要】

- 位置 とおだぐん みさとまち わくやちょう  
宮城県遠田郡美里町、涌谷町



宮城県

- 主要作物  
・水稲、小ねぎ、ほうれんそう、水菜

- 主な支援施策  
・県営経営体育成基盤整備事業(H9~H19)  
・みやぎの野菜産地拡大整備事業【県単】(H10~H11)  
・生産調整支援事業【県単】(H10~H11)  
・多面的機能支払交付金(H19~)

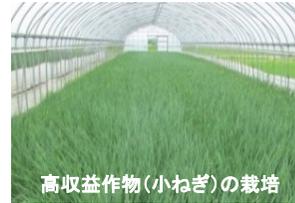
基盤

農地の大区画化や汎用化による  
労力の軽減と高収益作物の拡大

区画整理や暗渠排水等の整備により、**生産コストの低減を図るとともに**、畑作物栽培等の**水田の高度利用**や**高収益作物の拡大**を実現。



1ha区画に整備されたほ場



高収益作物(小ねぎ)の栽培

基盤整備  
(H9年~H19年)

【整備前】

ほ場は**10a区画**で土水路であるために**維持管理に多大な労力を要していた**。  
また、地下水位の高い区域もあり、ほ場の**汎用化が困難**であるとともに、農道の幅員が狭く**大型機械の導入も困難**な状況。



整備前のほ場

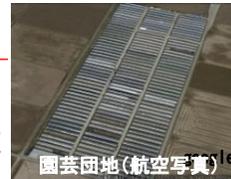


整備前の土水路

生産現場

高収益作物の栽培と作業コストの縮減

- **水稲栽培作業の共同化**を図り、省力化、低コスト化を図る。
- 水稲生産の**余剰時間を活用し**、**施設野菜(小ねぎ、ほうれんそう)の栽培**を拡大。平成11年度からパイプハウスを設立し、現在では**150棟を設置**。



園芸団地(航空写真)

加工・流通

ブランドの確立

- 小ねぎは「**仙台小ねぎ**」という**ブランド**で秋田、福島、東京等へ出荷。
- 部会で**共同の加工調整施設を整備**し、生産拡大を後押し。



仙台小ねぎ

担い手

地域後継者の育成及び確保

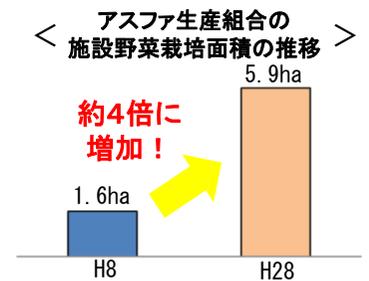
- 農業を志す新規就農者や新規参加者の研修等を受け入れ、**地域農業者の確保育成**を図る。
- 小ねぎ生産を地域雇用創出の場とし、出荷調整等の作業に**地域の女性を中心に雇用**。



若手生産者の検討会

生産コスト削減や高収益作物の拡大による生産組合の所得確保

- 所得向上を図るため、**作業や機械、施設の共同購入・利用**による、省力化やコストの低減。
- 経営の柱を**水稲から施設野菜に転換**し、**栽培面積が大幅に増加**。



県を代表する園芸法人の誕生

- 生産組合員の1戸が設立した**氏家農場(H18~)**は、**全従業員の43名を地域内から雇用**している。このうち**約8割を女性が占め**、**女性活躍の場としても貢献**している。
- **平成30年度**には、設立当初の**約4倍にあたる年間販売額約2億円**を超え、県内を代表する園芸法人に成長した。



有限会社 氏家農場

【工夫のポイント】

- 排水改良により、水稲単作から水稲+麦+大豆の2年3作のブロックローテーションを実現。
- 地下かんがいを活用し、乾田直まきに取り組んだほか、玉ねぎ、トウモロコシなど複数品目を栽培。
- 主要品目である玉ねぎでは、機械化一貫体系を導入し、労働時間を大幅に削減。

【取組地域の概要】

○位置  
とおだぐんみさとまち  
宮城県遠田郡美里町



- 主要作物  
・水稲、麦、大豆、玉ねぎ等
- 主な支援施策  
・経営体育成基盤整備事業等 (H16~H29)

基盤

基盤整備や地下かんがい等による生産性向上、高収益作物の導入

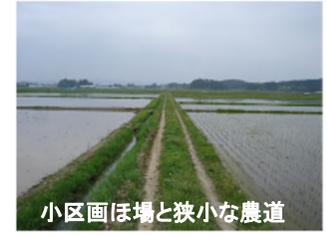
大型機械の導入などによる農業生産性の向上や、ほ場の排水性の向上及び地下かんがい施設の整備により、高収益作物の導入を実現。



基盤整備  
(H16年~H29年)

【整備前】

用排水路が未整備なことから、排水不良や湿害が発生。また、ほ場が小区画で農道が狭小であることから、大型農機の導入が困難。



生産現場

生産コストの大幅削減(米、たまねぎ)

- 地下かんがいシステムを活用し、乾田直まきで米の生産費を大幅低減。
- たまねぎの栽培から収穫、調製作業までを機械化し、労働時間を大幅削減。



地域の取組

地域の中心となり、コミュニティを牽引

- 法人化で手の空いた女性や高齢者等の地域内労働力を活用し、園芸作物の生産に取り組む。
- 地域の祭りの事務局を担当したり、地元小学校の農業体験を開催するなど、地域のリーダーとして活躍。



加工・流通

季節限定直売での全量販売

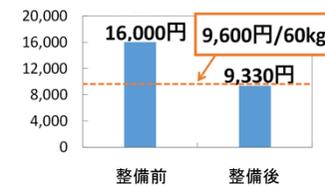
- 地区内1.6haで生産されているトウモロコシは、地区内に設置する夏場限定の直売店にて「茹でトウモロコシ」にして全量販売。



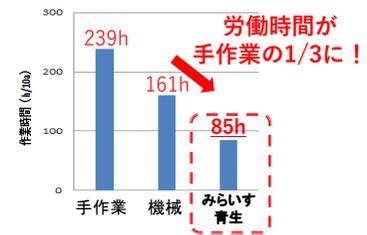
堅実な黒字経営を継続し、日本を代表する優良法人へ

- 米の生産コストは9,600円を下回り、玉ねぎの収穫作業時間も手作業の約1/3に短縮！

<米の生産コスト>



<たまねぎの収穫作業時間>



- 基盤整備を契機に集落営農組織を立ち上げ、その後法人化。



- 法人設立当初から黒字経営を実現。平成29年度には経常利益で約1億円(純利益は約8千万円)を達成！

<法人の収益の推移>



【対策のポイント】

- 基盤整備により大区画ほ場を整備。
- パイプライン化を図り、水管理や維持管理の労力を軽減。
- 農地を集積して作業効率が向上。
- 集落営農組織の法人化が進み経営が改善。
- 直播栽培に取り組み、米の生産コストを削減。

農地の大区画化と維持管理労力の軽減



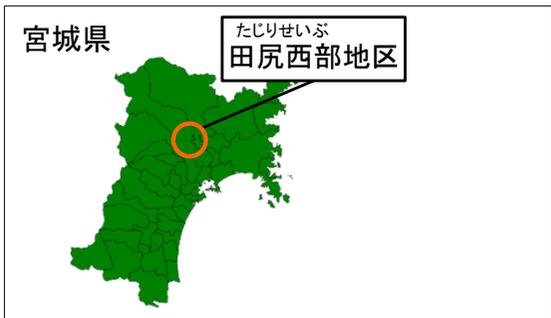
- 区画整理による農地の大区画化
- 用水のパイプライン化による水管理の省力化

基盤整備 (H12~R1)



【取組地域の概要】

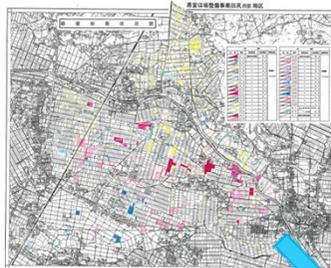
○位置 おおさきし 宮城県大崎市



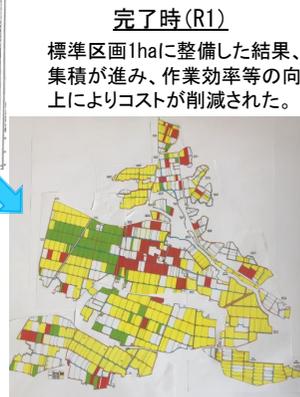
- 事業名 農業競争力強化農地整備事業(H12~R1)
- 主要作物 水稻・大豆
- 受益面積 483.0ha
- 主要工事 区画整理:483.0ha

経営体の育成と集積の推進

- 事業実施前は、個別経営体518戸で営農していたが、10a区画を1ha区画に整備し、その進展に併せて担い手へ農地集積。
- 2法人・8組織・個別19の中核的な経営体に集積され、営農の効率化が実現。



明治大正期に、10a区画に整備。ほ場が分散しており効率が悪かった。

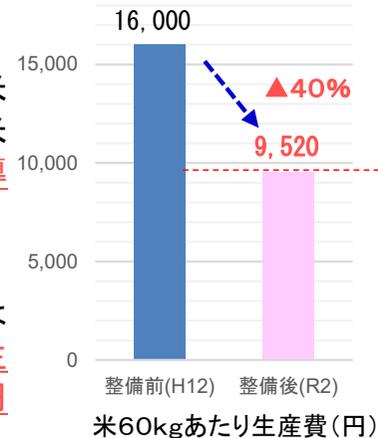


米の生産コストの削減

- 農地が担い手に集積・集約化されたことで、米生産の作業効率が向上。
- 併せて、主食用米の一部や飼料用米栽培で湛水直播を導入し、省力化を図る。
- これらの取組により、目標とする米生産コスト9,600円/60kg以下を達成。

対策の効果

【田尻西部地区】



## 【工夫のポイント】

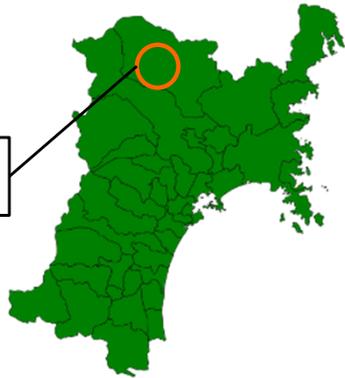
- 平成28年に地域農業を守るため、2法人8個別経営体の担い手により「**金田地区農業担い手連携協定**」を締結。
- **農業法人でも機動的かつきめ細かな整備**ができる農地耕作条件改善事業を活用。地区の中心的な担い手である「**農業生産法人川口グリーンセンター**」が事業主体となり実施。
- **経営規模拡大**や**雇用創出**など法人の農業経営や地域生活に寄与。
- **米粉生産・販売**のほか**米の輸出**にも取り組み、**経営多角化**を推進。

## 【取組地域の概要】

- **位置** くりはらし 宮城県栗原市 (過疎、山村、特農)

宮城県

かねた  
金田地区



- **主要作物**  
・水稲(米粉用新規需要米含む)、花き 等
- **主な支援施策**  
・大規模経営体育成事業(H27~H29)  
・農地耕作条件改善事業(R1~R4)

## 基盤

### 区画拡大による作業性の向上と維持管理労力の低減

- モデル的に区画拡大工事を実施するため、農業法人でも機動的かつきめ細かな整備ができる農地耕作条件改善事業を活用し、平均区画面積を**70aに拡大**、その結果、**畦畔延長が約64%削減**。
- **作業性の向上**と水管理や畦畔草刈りにかかる**維持管理労力の低減**を実現。



整備された圃場

## 基盤整備

(R1年~R4年)

### 【整備前】

昭和43年から昭和44年にかけて農業構造改善事業により整備されているが、20a前後の**狭小な区画のため作業効率が悪く**、また畦畔等の**維持管理に時間を要し**、経営の規模拡大に支障を来していた。



狭小な区画

## 担い手

### 担い手協定による事業推進

- 平成28年に地区内の2法人8個別経営体により「**金田地区農業担い手連携協定**」を締結。
- 現在、金田地区300haのうち、**200haを担い手に集積**。



担い手連携調印式の様子

## 加工・流通

### 経営多角化の推進

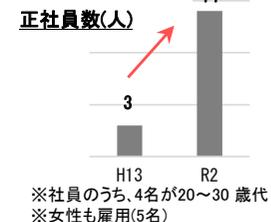
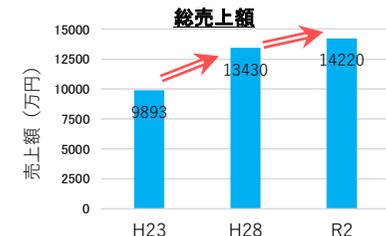
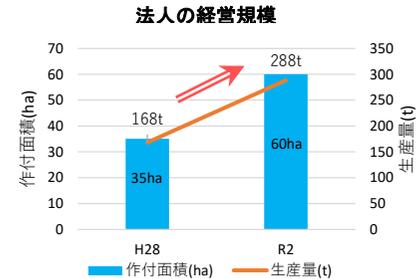
- 「農業生産法人川口グリーンセンター」では、早くから**米粉の生産、販売**を開始。独自のフレンドリーチェーン事業(開業支援)を展開し、**年々店舗数を拡大**(H23:8店舗→R2:20店舗)。
- 直接販売にも力を入れ、**通信販売**や**ネット販売**に加え、令和2年度からは**米の輸出**にも取り組み、**アメリカへ1.6t輸出**。令和2年度以降も契約継続中(R4実績:アメリカ4.8t、フランス5t、計9.8t)。
- 法人では、米以外にも花き部門経営による**雇用維持**及び**周年就労の確保**のほか、地元商店が減少する中、**農産物直売所も運営**。



フレンドリーチェーン事業で開業した渋谷店

### 法人の経営規模拡大と雇用の創出

- 区画拡大により作業効率が向上し、**経営規模の拡大**が可能となった。また、**売上高も上昇**。



- 過疎化が進む地域にとって**貴重な雇用を創出**。持続可能な農業経営と地域農業・暮らしを支えている。

## 【工夫のポイント】

- ほ場整備の実施 (87ha)に合わせて農事組合法人を追加で設立し、2つの法人により地域農業を担う。
- 用水施設のパイプライン化により水管理作業の省力化を実現。
- こだわりの大豆と米による地域ブランド「ぜいたく味噌」の加工販売。
- JAみやぎ仙南や柴田町と連携した「たまねぎ」栽培の導入促進と販売会の開催。

## 【取組地域の概要】

○位置 しばたぐん しばたまち  
宮城県柴田郡柴田町



- 主要作物  
・水稲、大豆、たまねぎ等
- 主な支援施策  
・県営かんがい排水事業 (S62~H7)  
・県営湛水防除事業 (H2~H10)  
・デジタル田園実装拡大事業 (R4)  
・農業競争力強化農地整備事業 (H29~R8)

## ほ場整備による営農の効率化

- 中名生工区 (37ha)、下名生工区 (50ha)において、区画整備や暗渠排水、揚水機場等の整備を実施。
- 大型農機の導入が可能となり、スマート農業等による農業生産性の向上及び高収益作物の生産拡大を実現。



## 基盤整備

(H29年~)

## 【整備前】

用排水路が未整備の土水路であるため、排水不良地が多く、農作業や維持管理に支障。

当該地区が船岡用水路の最末端であるため、上流側の水利用に影響を受け、適期、適量を確保することが難しい。



## 基盤

## 大区画化による作業効率の向上

- 大型機械やドローン等の導入により、営農の効率化と品質向上、コスト削減を実現。
- 大区画水田での高収益作物(たまねぎ+ブロッコリー)の栽培体系を確立。
- JAリースによるたまねぎ全自動移植機や自走式オニオンピッカーを活用した機械化体系を実践。



## 生産現場

## 豊かな大地を未来へつなぐ担い手の育成

- 農家数223戸から2法人、担い手3戸へ集約。
- 農事組合法人下名生ファーム (H27設立)は、組合員10人と常時雇用者1人で経営(水稲28ha、大豆4ha等)し、農産加工施設兼直売所を運営。
- 農事組合法人桜花爛漫 (R3設立)は、組合員3人と常時雇用者1人で経営(水稲37ha、たまねぎ0.65ha等)。

## 担い手

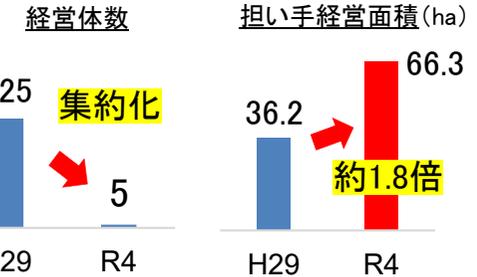
## 地域の特産品と6次産業化の推進

- 地場産の米と大豆を使用し、発酵促進剤を使用しない手づくり「ぜいたく味噌」のブランド拡大。



## 担い手経営面積の拡大

- 新規設立法人を加えた2法人を中心に農地の集積及び集約化を推進。



## 高収益作物の生産面積が拡大

- 水稲部門の省力化により、平成29年には生産されていなかったたまねぎの生産面積が65aまで拡大 (R4)。

## 6次産業化の拡大

- 「ぜいたく味噌」を使用した特産品を販売する直売所設置や飲食店によるぜいたく味噌ラーメンの販売。

